

INGING NEWS PAPER 2009 VOL.03

Special Topics

PLAY BACK to race

2007 & 2008 TWIN RING MOTEGI

ツインリンクもてぎでの
過去2年間の歴史を振り返って

FREE
無料

Race Report

The previous race : 2009 第2戦 鈴鹿サーキット

Round.2 SUZUKA CIRCUIT

Race Report

2009年、第2戦!!

第2戦 2009年5月16日・17日 鈴鹿サーキット

Round.2 SUZUKA CIRCUIT 5/16 - 5/17



決勝レースレポート

<フリー走行> 天候:曇り|コース状況:ドライ

まずは決勝レースを想定したピットインシミュレーションを行い、その後車体セッティングの確認に入る。練習を重ねるごとに1分52秒台から48秒台、47秒台へと確実にタイムも上がっている。ここでチームは立川を少しへ呼び戻す。完全にドライセッティングへとマシンを再セッティング。30分間のセッション/毎18分マシンをコースへ送り出した。立川は直ぐさま1:45.237を記録して6番手にポジションをアップさせる。その後、各チームともタイムを上げ、立川は結果12番手までセッションは終了したが、最終ラップの家コースで好タイムを叩き出したので、決勝レースへ向けての準備は整ったと言えよう。

<決勝レース/43周>

天候:雨|コース状況:ウェット

午後2時33分、決勝レーススタート。レイトニング・ブルブラックアウト、ホームストレートが一瞬にしてウォータースプレーに包まれる。その中でなんと立川がエンジンストール。8番グリッドから一気に11番手となってしまふ。前走車と距離が開いた立川は2分2秒台で追い上げを開始。この時点で総合6番手のラップタイムである。しかし、勢い余った立川は4周目の1コーナーで単独スピンコースアウトしたものの、うまく復帰を立ってコースに復帰。しぶとく走り回って周回を重ねると、10周目には10位にポジションを上げた。

14周目、前を行くベースの上からない#7立本(LeMans)を追い詰める。15周目のS字コーナーからテールトゥーノーズでプレッシャーを伝える。西コースに入り少々難されたように見えたのだが、スプーンコーナーで追い詰むと一気にインを斬る。立川のマシンが大きく振られた。再び立川はコース上に立ち回り、ポイント圏内を目指した走り再びの道となっていました。

17周目に再度圏内に追いついた立川と、前半のアクシデントにレノーズ交換後、最後尾からの追い上げを助けていた#32小暮(NAKAJIMA)が三つ巴の戦いになる。3台は縦列でヘアピンカーブに進入して行く。何となく後方から小暮が立川に迫る。両者ともコースアウト、低速コーナーではあったがグラベルに落ちたり、残念ながら立川はここでリタイアとなってしまった。雨の決戦レースは、ポールポジションスタートの#2 B・トレイエ(IMPUL)を仕留めた#31 L・デュバル(NAKAJIMA)が優勝を飾った。

[48] 立川 祐路	リタイア
Lap	16
Time	33:96.943
Delay	27Lap
Best	2:00.764

48 立川 祐路 CERUMO/INGING
「全くグリップしなかった。予賽の時より水の量は少なかったのに……、ちょっと原因がわからないんだけど、昨日の方がきちんとグリップしていたんだ。本場にフレッシュし続けていたんだけどベースは上げられなかった。キチンと原因を掴んで次のレースをがんばるよ。」

監督: 竹内 浩典 CERUMO/INGING
「あんまり良い状態で走らせてあげられませんでした。コース状況の変化に対応できず課題が多く残ったレースとなってしまいましたね。最後のアクシデントもなるべく避けたのもいいかもしれません。このレースを練習し直して、次のレースに望みます。」

Play back to 2007 & 2008 TWIN RING MOTEGI

過去2年(2007年-2008年)インギングモータースポーツのツインリンクもてぎの戦いを振り返る。

07 フリー走行では、クインタレリが1分38秒306で2番手。横溝が1分50秒555で6番手。横溝が10番グリッドから、クインタレリが22番グリッドからのスタート。1コーナーでアプロードした横溝のマシンの前方で、片側幅が狭い車道に突っ込んでスピンしたため、横溝はこれを避けずには済まず、1周目を横溝16位、クインタレリ19位で迎え入れた。後半は雨降やピコもあつて、横溝は10周目に10位、クインタレリも2周目に17位とする。49秒と予想外に速いピットストップを飛ばし、いったん番手争いを甘んじることになった。少しもピットインのタイミングに自由度を持たせようと、カガリンを遠征に派遣していたこともあって、クインタレリが先行車を探るたびに、結果的にチームでピットインを引かざるを得ない。1分40秒12というピットストップを叩き出した。直後から横溝の速い上げを図る横溝に対し、クインタレリもしつこくポジションを上げていく。クインタレリはレースの折り返しとなる30周を過ぎた頃には、なんとトップ6圏内に進出することに成功。ライバルたちとのピットインを免れて、35周目の時点でクインタレリは10位、横溝は11位、クインタレリは51周目の90度コーナーで前走の横溝である本山を抜きに優勝し、5位に浮上。横溝も予備のマンナながら、なんとこの日、横溝は前走と異なり、スタートがキレよくスタートが切れない。結局クインタレリはそのまま5位の座を守りきってチェッカー。最後尾からの追いつきというところを見ると予想以上の大活躍であったといえるだろう。チームの横溝もマシンの調子も良く、このレースは、初のトップ6ピットインを見て13位でのフィニッシュとなった。

08 決勝レースは14:34スタート。オープニングラップはクインタレリが抜きのスタートを見せ11番手で帰ってくる。立川は13コーナーで先行車とすれ違う。11番手から10位を奪った。スタートで出遅れた立川は、直後から横溝の速い上げの展開と合った。7周目のS字コーナー、横溝のオーバーテイクを続けていた立川は、クインタレリとすれ違う。7周目のS字コーナー、横溝のオーバーテイクを続けていた立川は、クインタレリとすれ違う。7周目のS字コーナー、横溝のオーバーテイクを続けていた立川は、クインタレリとすれ違う。

大きく展開して、ここでもインは横溝を抜いた。立川は12番手まで進行中、先行く#4オリベラ(KONDO RACING)を90度コーナーで再度もすれかかるのだが、横溝はそのままに立川は、ここでチームは横溝のペースアップを修正し、早めのピットインを敢行する。30周目、ピットインを引かずにいたクインタレリは16番手まで順位を上げ、横溝とレースを併走している。しかし、ここで再び横溝がクインタレリを抜いてしまった。なんとピットアウトした#32小暮(NAKAJIMA)が1コーナーで遅速でクインタレリを抜いて、横溝を抜いた。横溝は少しも遅くはなかった。

レース後半、立川はトップ6圏内を走り、1分50秒台で走行している。90度コーナーで#55山本(ART)を抜き、次の直線#2トレイエ(LAWSON TEAM IMPUL)と競り合う。直線、直線が残り2周となったところまで、#5山本(SiTEAM 52)と、#20平手(TEAM IMPUL)との3つ巴の争いを展開していたが、横溝は残り3分37秒でのフィニッシュとなった。

48